横浜市立 中沢小学校　　令和7年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「ひびきあい」
〇自ら学び、自ら考え、つくりだす力を育てます【知】
〇お互いに認め合いながら、共に伸びていこうとする態度を育てます【徳】
〇たくましい心と健やかな体を育てます【体】
〇社会とのかかわりを大切にし、共に生きる態度を育てます【公】
〇さまざまな変化に柔軟に対応できる力を育てます【開】

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
持続可能な社会の創造に貢献する力	他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 協働的なイメージをもつ力 思いや考えを伝え合う力 考えを出し合って新提案する力

中期取組目標

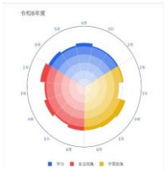
＜子ども一人ひとりの思いを大切にしながら＞
〇多様な人との出会いや学び合いを通して、しなやかに考え挑戦することを楽しむことができるようにします。
・1年目は意図的に協働的な学びを設定し、他者の考えのよさを受け入れる力を育てます。
・2年目は他者の考えのよさを受け入れ、よりよい考えを創り出そうとする姿勢を育てます。
・3年目は多面的、総合的な見方を身につけ、しなやかに考える子どもを育てます。
〇日々の観察とデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え、学びの充実に生かします。
〇まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちのために活動しようとする意欲を育みます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
授業づくり		（1）児童が互いに学びあったり、多様な他者と共に関わったりする「協働的な学び」を意図的に設定する。 （2）校内授業づくり研究会（国語科）を中心に、相手意識や学習の目的を意識した学びを構築できるように学習の流れを工夫する。 （3）各教科・領域での学びを通して、一人ひとりがしなやかに考え自分の考えを広げたり深めたりしながら、多様な見方をすることができるように、友達の考えと比べたり、新しい発想を取り入れたりして再考する力を育む。
担当	授業づくり部	

学力向上に関わる本校の状況

〇令和6年度横浜市学習状況調査の結果



生活意識と学力の項目に関しては全ての学年が、学習意識の項目に関してはほとんどの学年が平均値を上回っている。

〇令和6年度　学校評価アンケートより

	質問	A	B	C	D
3	自分の考えをもって話合い活動に参加しています。	52.5%	37.2%	8.2%	2.1%
4	友達との思いや考えのよさや違いを感じたり考えたりしています。	56.2%	34.8%	7.0%	2.2%
5	押し合いを通して、よりよい考えをつくりだしたり、自分の考えに生かしたりしています。	52.2%	37.5%	8.5%	1.8%

お互いの思いや考えのよさや違いを感じたり考えたりしている児童は9割を超えている。
また、自分の考えをもって話合い活動に参加している児童や学び合いを通して、よりよい考えをつくりだしたり、自分の考えに生かしたりしている児童も9割に近い。
しかし、令和5年度と比べてるとこの2項目は数値が数パーセントずつ下がっている。
自分の考えに対する自信のなさから、学び合いからよりよい考えが生まれる経験を積み重ねにくい様子が見られる。

今年度の目標

校内授業づくり（国語科）を中心に協働的な学びを意図的に設定することで、互いに学び合い、しなやかに自分の考えをもてるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	〇校内授業づくり研修の講演会などで、国語科における協働的な学びの意図的な設定する上での指導事項を理解する。 〇日々の授業の中で、意図的に協働的な学びを設定し、児童の様子や振り返りなどをもとに児童の変容について把握する。協働的な学びによって自分の考えがより明確になった、自分の考えが広がったなど肯定的にとらえている意見が出たときに価値づける。 〇指導案検討や授業研究会をを中心に、協働的な学びをどのように学習に位置付けるか研究し、日々の授業で実践して授業改善につなげる。
下半期	〇日々の授業の中で、協働的な学びによって自分の考えがより明確になった、自分の考えが広がったなど肯定的にとらえている意見を価値づけ、取り入れようとする態度を養う。 〇指導案検討や授業研究会をを中心に、協働的な学びをどのように学習に位置付けるか研究し、日々の授業で実践して授業改善につなげる。 〇国語科に限らず、他教科・領域でも意図的に協働的な学びを設定する。どのような学習でも協働的な学びを通して、児童が協働的な学びによって他者の考えを受け止め、再考して自分の考えをより良いものにしようとする意識を高める。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野		具体的取組
豊かな心		（1）ペア活動・たてわり活動・6年生による1年生サポート等での異学年交流を通じて、相手を思いやる心を育てる。 （2）音楽活動や学校行事等を通じて、友達と同じ目標に向かうよさを実感できるようにする。 （3）子どもたちがお互いに個性を認め合える居心地のよい学級・学校となるよう、全職員で対応していく。 （4）まわりとのかかわりの中で、自分の行動を顧みて相手の気持ちを察する力を育むようにする。
担当	人権部、児童指導部	

豊かな心に関わる本校の状況

	質問	A	B	C	D
1	たてわり・ペア活動では、ペアの人と楽しく活動しています。	72.1%	22.3%	3.8%	3.0%
2	いろいろな活動に、自分ができることを進んで取り組んでいます。（係活動・委員会・学習・運動会など）	60.9%	25.4%	3.4%	1.3%
11	困ったときや悩んだときに相談できる人がいます。（家族・先生・学年の先生方全員・カウンセラー・困り事の先生・電話相談など）	60.0%	22.2%	5.7%	4.1%

（令和6年度　学校評価アンケートより）
〇項目7,8では、令和5年度と同様にABが高い結果となっている。これは、たてわり活動が充実していたり友達と意見を交わしながら認め合ったりできているからだと考えられる。学校行事や体験的な活動を通して、共通の目標に向かって高め合うことのよさを実感できているからだと考えられる。

〇令和5年度と同様に、自分の気持ちを相手に分かりやすく伝えたり、それぞれのよさを認めて協働していこうとする姿には弱さがみられるが、項目11が高い結果となっていることから、身近な人に相談できる児童は多いと考えられる。

今年度の目標

自分もみんなも大切にしながら繋がろうとする思いをもち、まわりとのかかわりの中で、自分の行動を顧みて相手の気持ちを察したり思いやったりする心を育てる。

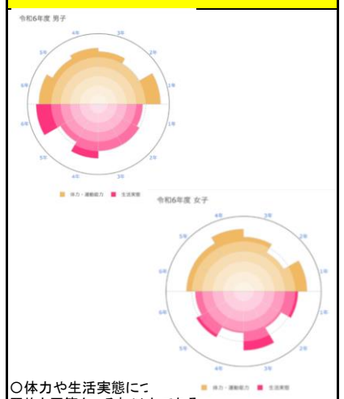
目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	〇年度初めの環境になじみ、緩やかに学校生活を送ることができるようなスタートプログラムの趣旨を共通理解し、つながりを感じることができる横浜プログラム（YP）から取り組む。 〇日常の読書や歌、栽培活動等を通して、感性の土台づくりを行う。 〇道徳の授業では、道徳的価値を基に自己を見つめ、友達の考えもきいて再考できるようにする。 〇横浜こども会議の取組に向けて、児童の委員会活動と繋げることで、子どもたちが主体的に取り組めるようにする。 〇YPアセスメント1回目の実施と社会スキルの設定をする。 〇年間を見通した社会スキルの設定を行い、学年で組織的に取り組む。 〇学校生活についてのアンケートを行い、1回目の子どもとの教育相談を実施することで、より細かく様子を見とる。 〇人権研修を設定し、教職員の人権意識を高める。 〇たてわり活動で、異学年交流の意義やかかわり合うよさを感じさせる。 〇学援隊の方々を全校児童に紹介し、感謝の気持ちや地域への愛着を高める。 〇いじめをなくし、自分もみんなも大切にできる学校にするためにはどうしたらよいか、子ども達の意見をきく。
下半期	〇横浜こども会議の取組の中間点で振り返る。改善や修正案を全校児童に投げかけていく。 〇YPアセスメント2回目の実施をする。教職員は、個人プロフィール票を活用して児童理解を深め、支援に生かす。 〇児童生徒交流会で、小中学校の子どもたちがかかわり合いそのよさを感じさせる。 〇運動会、音楽集会に向けて、学年等で子どもたちが同じ目標に向かって取り組むよさを感じさせ、「ひびきあい」を実感できるようにさせる。 〇人権週間を設定し、日常のテーマに即した切実感のある話題から、人権意識を高める。 〇全市一斉の学校生活についてのアンケートを実施し、2回目の子どもとの教育相談を実施することで、子どもたちの様子や変化、成長を見とる。 〇学援隊の方など、地域の方への感謝の気持ちを伝える活動を設定する。 〇いじめをなくし、自分もみんなも大切にできる学校にするために、子ども達の考えを取り入れた活動を実践する。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野		具体的取組
健やかな体		（1）元気アップタイムや学校保健委員会の取り組みを通し、健康を守ることに興味をもつことできるようにする。家庭と連携し、けがの防止、運動、食育に取り組んでいく。 （2）心の健康をテーマに取り上げ、気持ちの表現の仕方について考えられるようにする。 （3）一人ひとりが体力・運動能力調査の分析に基づいて、体育学習に取り組んだり、運動習慣を改善したりできるようにする。 （4）子ども主体で計画された運動集会を定期的に行うなど、楽しく体を動かす機会を設定し、日常的に運動に取り組む態度を養う。
担当	健康食育部	

健やかな体に関わる本校の状況



〇体力や生活実態に
平均と同等か、それ以上である。
〇反復横跳び（敏捷性・調整力）の数値は平均以下である。
〇朝食は9割程度の児童が毎朝とっている。
〇睡眠時間は9割程度の児童が毎日8時間以上とっている。
（保健室来室記録より）
〇怪我による保健室の来室人数が1728人（R5年度）1434人（R6年度）と推移している。昨年度の学校の取り組みの成果や体を動かすことが楽しいと感じている児童が増えていると考える。

今年度の目標

よりよい生活習慣の重要性や運動習慣の必要性についてより理解を深め、実践しようとする態度を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	〇食事を大切にする意識を高めるため、給食を「生きた教材」として扱い、ぱくぱくだよりなどを通して食品の種類や特徴、栄養バランスのとれた食事などについて指導する。 〇自らの健康課題に気づけるよう、月ごとに異なるテーマを設定した健康教育「元気アップタイム」を実施する。 〇怪我を減らすために、児童自身が自分たちができることを考えて行動していけるよう、「怪我の防止」をテーマに学校保健委員会を実施する。 〇新体力テストの過去の記録をもとにし、児童自身が結果を比較することで自分の体力や健康へ意識を向ける。 〇室外、室内でできる「体づくり」を学級などで、子どもの考えを取り入れて、継続的に体を動かす時間を設ける。
下半期	〇自己の健康に対する意識や健康的な生活を送ろうとする態度を育てるため、元気アップタイムや学校保健委員会等で学習した内容を日々の生活や給食時間の指導に取り入れ、年間を通し繰り返し呼びかける。 〇子どもたちが主体的に取り組めるよう、児童委員会による発信等の活動を取り入れる。 〇運動委員会を中心にした活動への取組を行い、体力の向上に努める。 〇室外、室内でできる「体づくり」を学級で取り入れ、継続的に体を動かす時間を設ける。 〇全校児童で長縄に取り組み、健康・体力の向上を図る。